

## 浜の活力再生プラン

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	沼津市内浦地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 大沼 富久

再生委員会の構成員	内浦漁業協同組合、沼津市、静岡県漁業協同組合連合会
オブザーバー	静岡県（水産技術研究所）

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	沼津市内浦地区 漁業の種類 養殖漁業(7経営体) 巻網漁業(3経営体) 定置網漁業(10経営体) シラス船曳網漁業(11経営体) 刺し網漁業(22経営体) 遊漁船業(11経営体) 合計136名が上記漁業に携わっている。
-------------------	--

## 2. 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当地区は駿河湾に臨む伊豆半島の付け根に位置し、沿岸には入り江が多く、養殖業やまき網などの漁船漁業が盛んである。また、首都圏から100km圏内で、大消費地が近く好立地となっている。

当漁協の組合員数は、平成10年は792名であったが平成26年には692名（正組合員147名、准組合員545名）に減少し、高齢化も進んでいる。また、平成10年の水揚量は約430トン、水揚金額は約4億3,150万円であったが、平成26年には水揚量は約200トン、水揚金額は約2億5,600万円に減少した。このうち、主要漁業である養殖業では、平成10年の活魚の水揚量は371トン、水揚金額は約3億6,834万円であったが、生産コストの増大や国内市場の縮小、後継者不足等の要因により、平成26年には活魚の水揚量は170トン、水揚金額は2億1,378万円へと減少した。まき網漁業については、平成26年の水揚量は5,219トン、水揚金額は約5億5,400万円（このうちサバは水揚量4,700トン、水揚金額4億3,200万円）で、養殖業と同様、減少傾向にある。その他の漁業として水揚量26トン、水揚金額約3,250万円となっている。

このような漁業生産量の減少により、水産物の付加価値向上や操業の省力化が課題となっている。内浦漁協では水揚げされた水産物を利用して干物の製造・販売を行い、6次産業化として付加価値向上に取り組んできた。近年では平成27年に地域連携販売力強化施設として、養殖アジなど地元で水揚げされた水産物を使用した食堂と直売所を兼ねた漁協直営の「いけすや」をオープンさせ、6次産業化に一層、力を入れている。まき網漁業では、平成26年から、もうかる漁業実証船事業を実施し、先進的な漁業経営に取り組んでいる。

今後、地域の活性化や安定した漁業経営を行っていくためには、これまでの取組みをさらに発展させていく必要がある。

## (2) その他の関連する現状等

当地区は、伊豆の玄関口であり、都心から車あるいは新幹線で約2時間とアクセスがよい。また、ダイビングで有名な大瀬崎もあり、遊漁船業などマリレジャーも盛んで、平成26年にはダイビング施設を開設し、漁業とマリレジャーの共存にも取り組んでいる。

一方で、伊豆縦貫自動車道の整備に伴い、東名、新東名から伊豆地域に直接人が流れるため、当地域に立ち寄りなくなっており、観光施設や旅館と共に情報発信に取り組む必要がある。



### 3. 活性化の取組方針

#### (1) 基本方針

<p>○漁業収入向上のための取組み</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まき網漁船による沼津港に水揚げされるサバを活魚として漁協の生簀へ移し蓄養する。このうち、約3割の400g以上のサイズの大きなサバは首を折り脱血して首折れサバとして築地魚市場等に出荷する。残り7割のサイズの小さなサバについて、その7割は養殖業者へ種苗として販売し、3割は全て直ぐに三枚に卸しアルコール凍結を施し、高鮮度加工サバとして商品化をする。この加工処理によって従来の漁獲物よりも高鮮度な漁獲物として高付加価値化を図り、漁業者の所得向上を目指す。</li><li>・地元水産物を利用した加工品の製造・販売（まき網で漁獲した活サバや養殖マアジ、養殖マダイを寿司、惣菜等に加工）による6次産業化を推進する。また、内浦地区で生産される養殖のマアジ・マダイに神経締めなどを施し、従来の氷での出荷に比べ鮮度保持方法の改善によるブランド化や魚価・付加価値向上が図られ、漁業者の所得向上につなげる。</li><li>・平成27年にオープンした漁協食堂（食堂名「いけすや」）へマアジ・マダイ等の養殖魚や活サバの食材提供を行うとともに、漁協食堂での6次産業化を推進した加工品の販売、および食堂でのイベント開催により、養殖魚のPRや認知度向上、漁協ブランドの確立を目指す。漁協食堂を通じた水産物の安定した出荷体制を確立することで、漁業収入が向上する。</li><li>・漁船を使用した生け簀での養殖魚のエサやりなどの漁業体験ツアーや漁協食堂を活用した魚の捌き方教室、さらには漁協の荷捌き所やダイビング施設を活用して、一般消費者の漁業に対する理解を深めるとともに集客力のアップを図り、漁業者の収入向上につなげる。</li></ul> <p>○コスト削減対策</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・省エネ航行および定期的な船底清掃実施し、燃料コストの削減を図る。</li></ul>
---

#### (2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

<ul style="list-style-type: none"><li>・養殖業については、内浦漁協・静浦漁協漁場改善計画を策定し、健全な漁場の維持管理に努めている。</li><li>・まき網漁業については、月に1回程度満月の夜を挟んで5日間の休漁期間を設定し、資源管理に取り組んでいる。</li></ul>
--

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成28年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組みにより漁業収入を基準年から0%増加させる。 （1年目は調整、検討のため数値目標なし）</p> <p>①6次産業化の推進 ・漁協は、養殖魚（マダイ・マアジ）を使った加工品や、養殖マダイの未利用部位を用いた加工品の開発・販売についての検討を行う。</p> <p>②高鮮度出荷の推進による付加価値向上 ・漁協は、もうかる漁業創設支援事業で実証中の高鮮度サバの製品開発・商品化について検討・試作を行う。具体的には、まき網漁船が漁獲した活サバを、すべて直ぐに三枚に卸し、アルコール凍結を施し、高鮮度サバの商品化を目指す。 ・養殖のマアジ・マダイについて、漁協が神経締めなどによる高鮮度出荷を行い、単価向上を図る。</p> <p>③漁協食堂を利用した水産物の提供 ・漁協は、平成27年にオープンした漁協食堂「いけすや」で、特産の養殖マアジ、マダイを使った新規メニューを開発し提供する。また、アンケート調査を実施し、メニューの改良やサービスの向上に努める。</p> <p>④イベントの開催 ・漁協及び漁業者は、漁協食堂「いけすや」と周辺の網干し場を利用して、春と秋の2回イベントを開催し、活アジやマダイを利用した食事の紹介や、アジすくいや模擬セリなどを行い魚に親しむ場を提供する。また、マアジやマダイ等の養殖魚についての知識や味を伝え、養殖魚の良さや安全性を理解してもらい魚離れへの対応を行うとともに、沼津の養殖魚の需要拡大を図る。</p> <p>⑤レジャーとタイアップした取組み ・漁協は、ダイビング等の取組みを通して集客力アップを図る。また、ダイバーや漁業者と協力してサンゴの種苗生産やアオリカの産卵床の造成などの漁場整備を進め、水産資源の増大に取り組む。</p> <p>以上の取組により、安定的な経営を行い、後継者対策も進める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組みにより、燃油コストを基準年から0.3%削減させる。</p> <p>・漁業者は、省燃油活動を推進し、漁船の燃費向上のため、年2～3回船底清掃を実施するとともに省エネ航行を実施し、燃油消費量や経費の削減を図る。 ・漁協は、燃油や配合飼料の高騰に備えるため、漁業経営セーフティーネットへの加入を推進する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規漁業就業者総合支援事業（国）</li> <li>・漁業経営セーフティーネット構築事業（国）</li> <li>・水産業共同施設整備事業（県）</li> <li>・もうかる漁業創設支援事業（国）</li> </ul>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取り組みにより漁業収入を基準年から3%増加させる。</p> <p>①6次産業化の推進          ・漁協は、養殖魚（マダイ・マアジ）を使った加工品や、養殖マダイの未利用部位を用いた加工品の開発・販売を行う。</p> <p>②高鮮度出荷の推進による付加価値向上          ・漁協は、もうかる漁業創設支援事業で実証中の高鮮度サバの製品開発・商品化について検討・試作を行う。具体的には、まき網漁船が漁獲した活サバを、アて直ぐに三枚に卸し、アルコール凍結を施し、高鮮度サバの商品化を目指す。          ・養殖のマアジ・マダイについて、漁協が神経締めなどによる高鮮度出荷を行い、単価向上を図る。</p> <p>③漁協食堂を利用した水産物の提供          ・漁協は、平成27年にオープンした漁協食堂「いけすや」で、特産の養殖マアジやマダイを使った新規メニューを提供する。また、アンケート調査を実施し、メニューの改良やサービスの向上に努める。</p> <p>④イベントの開催          ・漁協及び漁業者は、漁協食堂「いけすや」と周辺の網干し場を利用して、春と秋の2回イベントを開催し、活アジやマダイを利用した食事の紹介や、アジすくいや模擬セリなどを行い魚に親しむ場を提供する。また、マアジやマダイ等の養殖魚についての知識や味を伝え、養殖魚の良さや安全性を理解してもらい魚離れへの対応を行うとともに、沼津の養殖魚の需要拡大を図る。</p> <p>⑤レジャーとタイアップした取組み          ・漁協は、ダイビング等の取り組みを通して集客力アップを図る。またダイバー及び漁業者と協力しながらサンゴの種苗生産やアオリイカの産卵床の造成などの漁場整備を進め、水産資源の増大に取組む。</p> <p>以上の取組により、安定的な経営を行い、後継者対策も進める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取り組みにより、燃油コストを基準年から0.7%削減させる。</p> <p>・漁業者は、省燃油活動を推進し、漁船の燃費向上のため、年2～3回船底清掃を実施するとともに省エネ航行を実施し、燃油消費量や経費の削減を図る。          ・漁協は、燃油や配合飼料の高騰に備えるため、漁業経営セーフティーネットへの加入を推進する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規漁業就業者総合支援事業(国)</li> <li>・漁業経営セーフティーネット構築事業(国)</li> <li>・水産業共同施設整備事業(県)</li> <li>・もうかる漁業創設支援事業(国)</li> </ul>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取り組みにより漁業収入を基準年から6%増加させる。</p> <p>①6次産業化の推進          ・漁協は、養殖魚（マダイ・マアジ）を使った加工品や、養殖マダイの未利用部位を用いた加工品の開発・販売を行う。</p> <p>②高鮮度出荷の推進による付加価値向上          ・漁協は、もうかる漁業創設支援事業で実証中の高鮮度サバの製品開発・商品化について検討・試作を行う。具体的には、まき網漁船が漁獲した活サバを、アて直ぐに三枚に卸し、アルコール凍結を施し、高鮮度サバの商品化を目指す。          ・養殖のマアジ・マダイについて、漁協が神経締めなどによる高鮮度出荷を行い、単価向上を図る。</p> <p>③漁協食堂を利用した水産物の提供          ・漁協は、平成27年にオープンした漁協食堂「いけすや」で、特産の養殖マアジやマダイを使った新規メニューを提供する。また、アンケート調査を実施し、メニューの改良やサービスの向上に努める。</p> <p>④イベントの開催          ・漁協及び漁業者は、漁協食堂「いけすや」と周辺の網干し場を利用して、春と秋の2回イベントを開催し、活アジやマダイを利用した食事の紹介やアジすくいや模擬セリなどを行い魚に親しむ場を提供する。また、マアジやマダイ等の養殖魚についての知識や味を伝え、養殖魚の良さや安全性を理解してもらい魚離れへの対応を行うとともに、沼津の養殖魚の需要拡大を図る。</p> <p>⑤レジャーとタイアップした取組み          ・漁協は、ダイビング等の取り組みを通して集客力アップを図る。また、ダイバーや漁業者と協力してサンゴの種苗生産やアオリイカの産卵床の造成などの漁場整備を進め、水産資源の増大に取り組む。          ・漁協及び漁業者は、養殖業の見学、漁業現場の紹介、漁協食堂での食事をパッケージにした漁業体験ツアーについて検討を行う。</p> <p>以上の取組により、安定的な経営を行い、後継者対策も進める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取り組みにより、燃油コストを基準年から1.1%削減させる。</p> <p>・漁業者は、省燃油活動を推進し、漁船の燃費向上のため、年2～3回船底清掃を実施するとともに省エネ航行を実施し、燃油消費量や経費の削減を図る。          ・漁協は、燃油や配合飼料の高騰に備えるため、漁業経営セーフティーネットへの加入を推進する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規漁業就業者総合支援事業(国)</li> <li>・漁業経営セーフティーネット構築事業(国)</li> <li>・水産業共同施設整備事業(県)</li> <li>・もうかる漁業創設支援事業(国)</li> </ul>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取り組みにより漁業収入を基準年から8%増加させる。</p> <p>①6次産業化の推進          ・漁協は、養殖魚（マダイ・マアジ）を使った加工品や、養殖マダイの未利用部位を用いた加工品の開発・販売を行う。</p> <p>②高鮮度出荷の推進による付加価値向上          ・漁協は、もうかる漁業創設支援事業の実証で開発した高鮮度サバ商品の販売に取り組む。          ・養殖のマアジ・マダイについて、漁協が神経締めなどによる高鮮度出荷を行い、単価向上を図る。</p> <p>③漁協食堂を利用した水産物の提供          ・漁協は、平成27年にオープンした漁協食堂「いけすや」で、特産の養殖マアジやマダイを使った新規メニューを提供する。また、適宜アンケート調査を実施し、メニューの改良やサービスの向上に努める。          ・漁協は、6次産業化により開発した商品を漁協食堂「いけすや」で販売し、消費拡大に取り組む。</p> <p>④イベントの開催          ・漁協及び漁業者は、漁協食堂「いけすや」と周辺の網干し場を利用して、春と秋の2回イベントを開催し、活アジやマダイを利用した食事の紹介や、アジすくいや模擬セリなどを行い魚に親しむ場を提供する。また、マアジやマダイ等の養殖魚についての知識や味を伝え、養殖魚の良さや安全性を理解してもらい魚離れへの対応を行うとともに、沼津の養殖魚の需要拡大を図る。          ・漁協は、農協等と協力して地産のPRを行うと共に、①、②の加工品やメニューのPRを行い消費拡大を図る。</p> <p>⑤レジャーとタイアップした取組み          ・漁協及び漁業者は、養殖場の見学、内浦地区の漁業紹介、漁協食堂での食事をパッケージにした漁業体験ツアーを企画し、団体観光客の誘致を図る。          ・漁協は、ダイビング等の取組みを通して集客力アップを図る。また、ダイバーや漁業者と協力してサンゴの種苗生産やアオリイカの産卵床の造成などの漁場整備を進め、水産資源の増大の取組む。さらに、ダイバー等に対し漁協事業のPRを行い水産資源の維持管理の理解を深める。</p> <p>以上の取組により、安定的な経営を行い、後継者対策も進める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取り組みにより、燃油コストを基準年から1.4%削減させる。</p> <p>・漁業者は、省燃油活動を推進し、漁船の燃費向上のため、年2～3回船底清掃を実施するとともに省エネ航行を実施し、燃油消費量や経費の削減を図る。          ・漁協は、燃油や配合飼料の高騰に備えるため、漁業経営セーフティーネットへの加入を推進する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>・新規漁業就業者総合支援事業(国)          ・漁業経営セーフティーネット構築事業(国)          ・水産業共同施設整備事業(県)</p>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取り組みにより漁業収入を基準年から10%増加させる。</p> <p>①6次産業化の推進          ・漁協は、養殖魚（マダイ・マアジ）を使った加工品や、養殖マダイの未利用部位を用いた加工品の開発・販売を行う。</p> <p>②高鮮度出荷の推進による付加価値向上          ・漁協は、もうかる漁業創設支援事業の実証で開発した高鮮度サバ商品の販売に取り組む。          ・養殖のマアジ・マダイについて、漁協が神経締めなどによる高鮮度出荷を行い、単価向上を図る。</p> <p>③漁協食堂を利用した水産物の提供          ・漁協は、平成27年にオープンした食堂「いけすや」で、特産の養殖マアジやマダイを使った新規メニューを提供する。また、適宜アンケート調査を実施し、メニューの改良やサービスの向上に努める。          ・漁協は、6次産業化により開発した商品を漁協食堂「いけすや」で提供し、消費拡大に取り組む。          ・観光バス等団体客の誘致を推進し、地区水産物の消費拡大を図る。</p> <p>④イベントの開催          ・漁協及び漁業者は、漁協食堂「いけすや」と周辺の網干し場を利用して、春と秋の2回イベントを開催し、活アジやマダイを利用した食事の紹介や、アジすくいや模擬セリなどを行い魚に親しむ場を提供する。また、マアジやマダイ等の養殖魚についての知識や味を伝え、養殖魚の良さや安全性を理解してもらい魚離れへの対応を行うとともに、沼津の養殖魚の需要拡大を図る。          ・漁協は、農協等と協力して地産のPRを行うと共に、①、②の加工品やメニューのPRを行い消費拡大を図る。</p> <p>⑤レジャーとタイアップした取組み          ・漁協及び漁業者は、養殖場の見学、内浦地区の漁業紹介、漁協食堂での食事をパッケージにした漁業体験ツアーを企画し、団体観光客の誘致を図る。          ・漁協は、ダイビング等の取組みを通して集客力アップを図る。また、ダイバーや漁業者と協力してサンゴの種苗生産やアオリイカの産卵床の造成などの漁場整備を進め、水産資源の増大の取組む。さらに、ダイバー等に対し漁協事業のPRを行い水産資源の維持管理への理解を深める。</p> <p>以上の取組により、安定的な経営を行い、後継者対策も進める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取り組みにより、燃油コストを基準年から1.8%削減させる。</p> <p>・漁業者は、省燃油活動を推進し、漁船の燃費向上のため、年2～3回船底清掃を実施するとともに省エネ航行を実施し、燃油消費量や経費の削減を図る。          ・漁協は、燃油や配合飼料の高騰に備えるため、漁業経営セーフティーネットへの加入を推進する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>・新規漁業就業者総合支援事業(国)          ・漁業経営セーフティーネット構築事業(国)          ・水産業共同施設整備事業(県)</p>



(4) 関係機関との連携

取り組みの効果が十分に発揮されるよう行政（静岡県、沼津市）、水産関係団体（静岡県漁業協同組合連合会）との連携を強める。

4. 目標

(1) 数値目標

養殖業（漁業所得の向上 %以上）	基準年(平成 年)	漁業所得： 千円
	目標年(平成 年)	漁業所得： 千円
巻網漁業（漁業所得の向上 %以上）	基準年(平成 年)	漁業所得： 千円
	目標年(平成 年)	漁業所得： 千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

5. 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
・新規漁業就業者総合支援事業(国)	後継者対策、担い手対策を進める。
・水産業共同施設整備事業(県)	水産物の付加価値向上や新商品開発など、6次産業化の推進に必要な加工関連施設の整備により、浜プランの効果が向上する。
・漁業経営セーフティーネット構築事業(国)	燃油や配合飼料の高騰による影響を緩和し、漁業経営の安定に繋がり、浜プランの効果が向上する。
・もうかる漁業創出支援事業(国)	当地域のさば漁業の構造改革のために実施した当該事業において、その実証として高鮮度サバの取組みを行うことにより、浜プランの効果が向上する。